

プーチンのロシア：アングロ-アメリカン枢軸やその NWO との完全な相対物

State of the Nation

March 18, 2022

秘密の歴史を明かす—プーチンはソ連邦のあらかじめ計画された崩壊のあと、決定的な役割を果たした。

なぜアングロ-アメリカン枢軸は、これほどプーチンを恐れ、彼を倒そうとするのだろうか？

いかなる世界の指導者も、過去十年の間、ロシアのウラジミール・プーチンほど、西側によって悪魔化された人はいない。

他のどんな大統領も首相も、これほど多くの暴力的な個人攻撃や、無慈悲な虚偽の弾劾に、さらされた人はいない。

明かにウラジミール・プーチンは、世界の陰の政府に対して、地球的権力のピラミッドの頂点にいる人々に深い恐怖を与えるほどの、純粹な脅威となっている。

なぜ彼らはそれほど彼を恐れるのだろうか？

その問題に解答する前に、ソ連邦のあらかじめ計画された、隠れた歴史がまず理解され、正しく考えられねばならない。プーチンがその当時活動した、歴史的コンテキストを理解することによってのみ、今日の彼の活動や宣言の大きな意味が理解できる。この知られざる歴史はまた、アングロ-アメリカン枢軸のリーダーシップを通じて、彼を貶める無数の者たちの反応を理解するために、重要なものとなる。次のように：

[訳者] これは膨大で、全文を訳すことはできないので、太字の見出しとなっている部分だけを、とりあえず訳すことにする。

・ベルリンの壁の崩壊に続く、ソ連邦の操作された崩壊に先立って、超秘密の取引が行われた。

・(The Company と呼ばれる) CIA もまた、今世紀のこの詐欺 (CON) に直接、巻き込まれた。

誰が信じられるだろうか？——CIA がこの巨大で、過去に例のない崩壊の予言ができなかったことを、認めようとしていることを。特に、現実にはレバーを引いて、本質的に計画された解体であったものの、ボタンを現実の押したのが、CIA であったことを考えるなら。



・ここまでくれば明らかであろう——なぜ、すべてのロシアの寡頭 (少数) 政治家が、ロンドン、テルアビブ、またニューヨーク市に逃げたのか？

・ウクライナ：もう一つの CIA の計画によるクーデタ…アメリカとイスラエルのための

・米-英-EU-ウクライナ連合は、最初から、間違って意図されたものを電送している。



・古い帝国たちは、プーチンが押し進めた本当の地球的変貌のために、死んで席を譲らねばならなかった。

・ウラジミール・プーチン登場：アングロ・アメリカン枢軸に対する完全な相対物 (foil)

・エリツィンは知っていた——銀行業者たちの際限のない資本主義を許すことは、ロシアの究極的な、西側権力からの自由のカギとなるもので、それは、ベルリンの壁の崩壊の操作と一致して起こった。

・もちろん、エリツィンの希望を満たすことは、少数支配の懲りない面々が、刑務所に入るか亡命することを意味した。

共産主義（ソビエト式の）は、少数権力者が自由にロシアの富を手にするのを許されたときに、はじめて終わらせることができた。

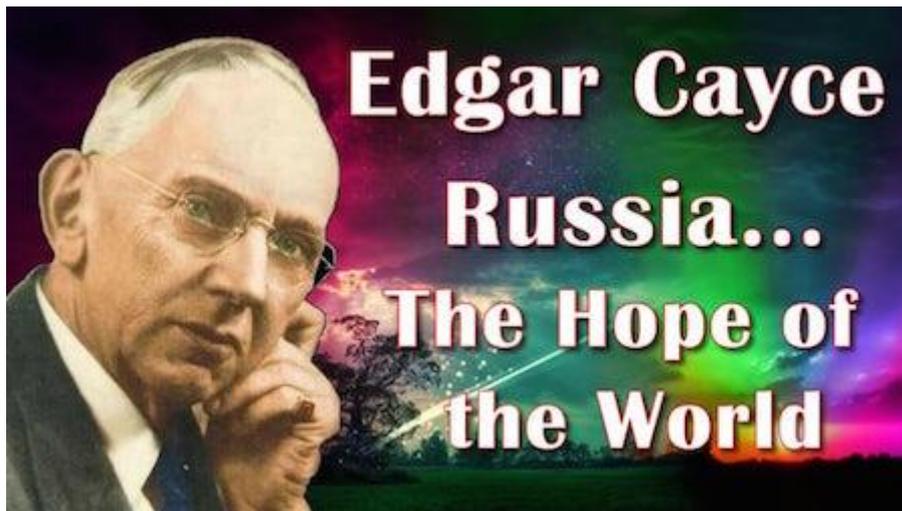
・ウラジミール・プーチンが西洋列強から、これほど悪意をもたれる理由は、彼がロシア人民の利益のために、彼らを完全に罠にかけたからである。

・核兵器は、偉大な平等化するものとして、役立つ一面がある。

・国家主権を尊重せよというロシアの要求は、はるかにより大きな、世界的運動を代表するものである。

・「ロシアを大事にせよ」は文字通り、プーチンの「道徳的・政治的な基準」となった。

世界の未来はロシアと共にある。



エドガー・ケイシーの予言

「ロシアを通じて世界の希望がやってくる。
時々言われるような共産主義やボルシェビズムという観点からではない。
違う！ そうでなく、自由——自由を通じてだ。
一人ひとりの人間が自分の仲間のために生きようになる。
この原理はそこで生まれたものだ。それが結晶化するには年数がかかる。
しかしロシアから、再び、世界の希望がやってくる。」

[訳者 Greatchain 注]

見出しだけを訳しても、よく分からないと思うが、これが大きな規模の話だということは分かるであろう。なぜ人は、これほどプーチンに悪態をつくのか？ それは、プーチンが、いわゆる陰謀団 (Cabal、New World Order) を敵に回して、勝ちそうな形勢にな

ったので、この悪人どもは彼を、「悪魔化」して、弱体化を狙っていると言ってよいだろう。彼らは、何年もの間、知恵の限りを尽くして、周到に勝利を準備してきたのに、そうはいかなかった、つまり人民を騙せなかったのである。このウクライナ戦争は、その結果としての自暴自棄の行動である。

歴史は唯物論的に働くものではない。摂理史観と言われ、歴史は善と悪の、神と悪魔の闘いで、神だけでなく人間だけでなく、神と人間が協力して、世界の靈的レベルを向上させて過程として現れる。その過程で、人間がもうこれ以上は闘えないと思うことがある。しかしそれは神の試練である。「**神は曲がった線を用いてまっすぐに書く**」といわれる。今、プーチンのロシア側が、その苦境にあるが、神の立場を取るエドガー・ケーシーの予言は、「それが結晶化するには年数がかかる」と言い、最後には「ロシアから希望がやってくる」と言う。

バイデンは、自動人形のようにひたすら悪態をつくだけであり、彼は「私を扱う人」my handler とよく言うように、これは、彼を操作する者たちの焦りでもある。この者たちは悪人ではあるが、唯物論者ではない靈的（サタンの）存在なので、ケーシーの予言が成就しつつあることを、実は知っていると思われる。それでプーチンだけが世界的に憎まれるという、不思議な現象の説明ができる。プーチンは神の側に立っているので、（いわば自動的に）道徳的な立場を取る。ロシア軍が故意に市民を殺したり、無意味な破壊をすることはできない。これは、この戦争の靈的な背後の問題で、ロシア軍が特に偉いわけではない。ダグラス・マグレガー退役大佐が、ロシア兵が「ウクライナ市民を故意に殺すとはナンセンスな話だ」と言ったのは、それを知っているからであろう。

逆に、戦争とは何の関係もないと思われた、「墮落息子」ハンター・バイデンの、ウクライナの生物・化学兵器との関係が明らかになってきたのは、あたかも神の手によって悪が暴かれたような、象徴的な話ではないか？ ペドフィリアなどの墮落と、ウソやプロパガンダの背信行為とは、つながった一つのものである。

宣伝によって、ロシアのプーチンが悪で、「アメリカ帝国」のバイデンが善だという、転倒した考えに囚われている人は、この大きな悪の世界の、せめて CIA と「ニセ旗」作戦だけでも、よく調べてみることをお勧めする。悪は、徹底して人を騙し汚い手を使うものである。